

令和2年度版 改善計画

学校名：甲斐市立竜王小学校

No.	項目	現状と課題	R3年度に目指すべき状態	①R2年度に実施する内容 ②R3年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	職員会議の前に運営委員会を行っている。運営委員会とほぼ同じ内容を職員会議で再度確認するといったことが起こる。職員会議の議事項目が多く時間もかかる。	協議事項のみ運営委員会開催とする。職員会議では確認伝達事項は目を通してもらうだけとし、協議事項は論点を明らかにして方向性を決める。	①議題の軽重をさらに検討した上で、連絡事項・協議事項・全校で確認すべき事項と分類する。また、職員会議以外の会議についても、あらかじめ時間をかけるべき点を提案者に明確にしておくよう指示し、より内容の濃い会議とするよう試みる。 ②本年度の状況を検証し、さらに改善を検討する。	
2	学校行事の負担軽減	感染症による臨時休業があり、年間行事の見直しが求められている。感染症予防の観点からも学校行事の軽減が余儀なくされている。	学校行事が感染症予防から削減されるので、来年度以降も削減可能かを見通して反省をまとめておく。	①職員全体で目的を明らかにして、年間計画に盛り込む行事について考える。 ②実施後の反省をもとに、行事の必要性を考慮しつつ、改めて削減したり簡素化したりすることについて検討する。	
3	校内組織の見直し	校務分掌に加え、校外における様々な役割が重複し、多忙な教職員がより多忙になるといった状況もある。	個々の教職員の仕事量に、大きな差がでないような分掌決めができています。	①負担が多い分掌については、これまでと同じように複数配置をする中で、役割や分担の明確化をはかる。 ②本年度同様、年度当初に分掌の必要性・重要性を吟味し、必要なら削減する。	
4	業務の効率化	校務支援システムの運用が始まったが、分掌間の連絡調整がうまくいかず、紙ベースでのやり取りが行われ二度手間になっている。	校務支援システムの運用により、昨年度より業務にかかる時間が短縮される。	①校務支援システムの活用方法を全職員で習得できるようにする。 ②問題点、課題点の解決方法を考える。	
5	部活動の負担軽減				
6	地域人材の活用	多くの行事で保護者をはじめ、地域の方々をお願いしており、助かっている。しかし、見守りについては、地区によっては担当される方の高齢化などの事情で、協力を得ることが難しい状況である。	長寿会、保護者、ボランティア等の協力により、学校により多くの地域の方々が来て、児童と交流して児童にさまざまなことを教えて下さる。	①協力者会議やホームページやPTA理事会などの広報の機会を利用して、各地域に協力の依頼をする。 ②現状を把握し、協力をお願いしていく。	
7	きずなの日	毎月第2、第4の金曜日を「きずなの日」に設定している。しかし、定時に退勤することはなかなかできていない現状である。	原則に戻り、毎月第1、第3月曜日に「きずなの日」と設定し、定時に帰るということが教職員間で定着する。	①きずなの日には、定時に帰るような職場の雰囲気を作る。「きずなの日」に、会議を設定しても定時に終了する。きずなの日に定時退勤できなかった場合は、個人で別日設定や出張後直帰するようにして、勤務時間超過を抑える。 ②本年度の課題を明確にし、年間行事計画の中に、無理なくきずなの日を設定する。	
8	勤務実態の把握	各教職員の勤務時間の把握は、校務支援システムに毎日の入力をしている。	各教職員の勤務時間をより正確に把握し、適切な指導助言により、超過勤務が連続する教職員をなくす。	①極度な超過勤務が連続する教職員に対して、管理職が個々に指導・助言を行う。 ②本年度の課題を明確にし、次年度の対策を講じる。	

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村教育委員会へ提出する。

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった

※様式は、必要な項目が含まれていれば、適宜、変更して使用して差し支えない

「きずなの日」の実施予定回数(21)回

令和2年度4月1日時点での設定回数